

## あてま森と水辺の教室 ポポラ



あてま森と水辺の教室 ポポラ HP : <https://popora.jp/>

Facebook : <https://www.facebook.com/nature.popora/>



### <ポポラとは>

#### － 「人と自然の共生」 を目指して －

ポポラでは「生物多様性の保全」「持続可能」をキーワードとし、広大なあてま高原の森を舞台に、小さなお子様からお年寄りまで世代を問わず気軽に自然に親しんでもらえる様な、様々な自然体験を企画ご案内しております。

自然から得られる恵みや学び。そして、自然と共に育まれた雪里の暮らしや知恵を、次代を担う子供たちとその保護者の方々に伝えていく活動も行っています。

人と自然が共に、心地良く暮らせるようにするにはどうしたらいいかを実際の自然体験を通して考えていただけるようご案内しています。

ポポラという名称は、新潟県十日町市はイタリアのコモ市と姉妹都市で、隣接する当間高原リゾートホテルベルナティオの名称もイタリア語由来であることから、「人と自然の共生」を表したイタリア語から名付けられました。

Simbiosi tra(共生) **popolo** e (人々) **natura**(自然)



今回お話を聞きした日本リスなどの動物がご専門の伊藤さん

## <活動について>

### －自然の情報を人々に通訳して架け橋となる「インタープリター」としての役割－

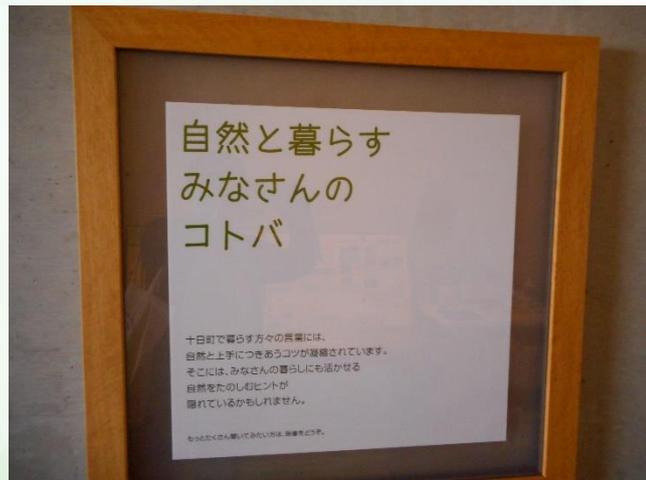
私たちの仕事は単に自然を紹介するガイドとは違い、「インタープリター」(自然の情報を人々に通訳する)として人と自然の架け橋になる役割の一面をもっています。

単に持っている知識を話すのではなく、参加した方々に寄り添い、その方々に分かるような言葉で伝えることを目指しています。

またポポラは広大な敷地を有した企業体の中の1組織なので、できることが多岐に渡っています。

例えば市民団体の方々だけでは実現が難しいようなことでも、ポポラと協力することで実現できることも沢山あると思います。

市民団体の方々にはネットワーク軽く活動できることが強みとされますので、お互いに足りないところを補え合えば、もっと活動の幅が広がっていくと思います。



## <子どもまつりに参加を決めた理由はなんですか？>

### －活動の輪を広げるとともに地元での認知度を上げる、「知っていただく」ことに力を入れていきたい－

当間高原リゾートは広大な敷地を有して、近隣の団体や企業と連携していますが、ポポラ側から積極的に外に出向いて行くという機会がなかなか無く、基本的には敷地内で活動が完結していました。

しかし、今後は敷地内だけではなく、どんどんと十日町市内やその近隣へと活動の輪を広げていかないといけないと考えています。

また、「当間高原リゾートホテル」としての認知度はありますが、ポポラについての認知度はまだまだ低く、リゾートホテルということで敷居が高いとか、宿泊しないと利用できないのではないかな等の声も少なくありません。

決して宿泊者専用施設ではなく、近隣にお住まいの方々にも気軽に利用していただける施設・活動であることをもっと周知したい、地元の方々の生の声を知りたいと、十日町市内の活動を色々調べていく中で「子どもまつり」の存在を知り、活動の幅を広げるきっかけにたく参加の応募をしました。

## <新型コロナウイルス感染症の流行による影響は？>

### ー 県内・市内のお客様の増加 マイクロツーリズム※による思わぬ効果ー

基本的に隣接する当間高原リゾートホテルの運用に従うので、ホテルの休館期間中はポポラも休館となっていましたが、県を跨ぐ移動を控える方が増えたことで県内及び市内のお客様のホテルのご利用が増え、それに伴いポポラをご利用いただくお客様も増えました。(県外に修学旅行に出られない為、代替案としての県内小中学校の訪問も多くあります)

こういった機会だからこそ利用した、という地元の方の声もあり、地元の方々によりよく知っていただく機会が増えました。似たような宿泊施設や観光業界が大きく打撃を受けている中、多くの方々にご利用いただいているという状況から、改めてこの場所、十日町の魅力を楽しみにいらして下さっていることを実感できました。

我々の方でも安心と安全を提供する為の対策を綿密に取らせていただいているので、安心して滞在していただけます。

※マイクロツーリズム：自宅から1時間から2時間圏内の地元または近隣への宿泊観光や日帰り観光を指す(Wikipediaより)

## <新型コロナウイルス感染症に対してどのような対策をとっていますか？>

### ー 市内で最も外からの流入が多い施設の一つであることから、徹底した対策を実施ー

国のガイドライン及び当間高原リゾートホテル側の方針に従い、基準は全てクリアしています。その上で更に各部署毎の方針に則って以下の通り消毒や除菌をこまめに行っています。

- 入館時の検温と消毒の徹底
- 施設内各所に消毒液を設置
- スタッフによる約1時間おきの施設内の消毒
- 定員数を減らし、余裕をもった定員設定や時間設定を行う

広大な敷地ですが、部分的にどうしても室内や移動時など密や高濃度の接触となってしまうところはあります。そういったところは徹底して消毒や除菌を行い、感染リスクを減らしていきます。

また、体験教室での送迎等の移動では、その都度消毒や除菌を参加者の方々にもご協力いただいています。

例えば「森のホール」は最大定員数を設定し、それを超えたら一旦入場を制限するようにしました。実際に定員数を上回るような時間帯はありませんでしたが、体制として整えておくことでいざという時にきちんと対応できるよう、マニュアルやガイドラインを作成しています。



迫力ある熊の剥製、左手奥には広々とした  
作業スペースが続きます

具体的な対策例としては、工作教室があります。

沢山のコースがありますが、各コースについて実施前に必ずリスクアセスメント(事前に危険度を質的・量的に評価する手法)を実施して問題が無いかを1つ1つ確認し、全て問題が無いことが確認できたコースのみご案内しています。

もし1つでも感染リスクについて対処できない項目があれば、そのコース自体を実施しないということとし、対応策が確立できたら改めてご案内しています。

基本的にお客様が共有して触るものは器具など含めて現在全て撤去しています。その関係で展示品もかなりラインナップが変わってしまい少し寂しくなったところもありますが、感染リスクを避ける為なので、お客様にもご理解いただいています。

## <今後の活動の展望について>

### － 敷地の利活用や環境保全活動の継続実施、新たな「価値の創出」 －



広大な敷地内では条件が合えば

リスなど野生の動物に出会うこともあるそうです

イベントなどに来店するなどしてもっと我々のことを知ってもらい、地域を盛り上げる一役を担っていきたいと考えています。

※耕作放棄地：以前耕地であったもので、過去1年以上作物を栽培せず、しかも、この数年の間に再び耕作するはっきりした考えのない土地のこと(農林水産省 HP より)

多岐に渡る活動の中には、あまり一般公開していませんが、敷地内の環境保全の活動(整備など)もしており、それに関する課題が色々あります。

その課題解決の為に様々な企業や団体と連携し課題解決に取り組んだりもしています。

例えば耕作放棄地(こうさくほうきち)※の問題など、敷地が広い為手が回っていない所があります。

そういった所の利活用として農業をしたり、ラベンダーなどの花を植えたりして、一見我々の活動とは関係ないように思える方々にも参加してもらい、新しい活動によって「価値の創出」をし、それをモデルとして発信して広めていけたらと考えています。

## <次回開催のこどもまつりについて要望・意見はありますか？>

### － 逆にポポラに対して要望がほしい－

今年初参加予定だったので、まだどんな感じなのか分からない点が多く、現時点で我々から何かこうしてほしい等の要望は特にありません。

逆に、他の参加団体や企業、近隣の方々からポポラに対して、こういう風な力を借りられないか？といった要望があれば、可能な範囲でお応えしていきたいと考えています。